

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	当該科目に関する実務経験
障がい児保育Ⅰ		（ 講義・ 演習 ・ 実習 ）	森 裕樹	
			鈴木 崇弘	
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択	
15 回	30 時間（1 単位）	1 年・後期	必修	
[授業の目的・ねらい]				
・ 障がいのある子どもの保育に関して、対象となる子どもの理解を踏まえ、家庭と連携した援助の内容について理解する。				
[授業全体の内容の概要]				
1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。				
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。				
3. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。				
4. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。				
5. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。				
[授業終了時の達成課題（到達目標）]				
・ 障がいのある子どもやその他の特別な配慮を要する子どもとその家庭への援助・支援について自分の考えを述べることができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
1. 障がい児保育を支える理念 障がいの捉え方と障がい児保育の歴史				
2. 〃 障がい児保育の基本				
3. 障がいの理解と保育における発達の支援 肢体不自由児の理解と支援				
4. 〃 視覚障がい・聴覚障がい児の理解と支援				
5. 〃 知的障がい児の理解と支援				
6. 〃 発達障がい児の理解と支援（ADHD、LD 等）				
7. 〃 発達障がい児の理解と支援（PDD 等）				
8. 〃 重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と支援				
9. 〃 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援				
10. 障がい児保育の実践 障がい児保育を支える記録・評価				
11. 〃 指導計画及び個別の支援計画の作成				
12. 〃 子ども一人ひとりの発達をうながす生活と遊びの環境				
13. 〃 子ども同士のかかわりと育ち合い				
14. 〃 職員間の協働				
15. 期末試験				
[使用テキスト・参考文献]				
アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育（萌文書林）				
[成績評価の方法と基準]				
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。				
・ 考查点(75%)				
・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。				
・ 平常点(25%)				
・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。				
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。				